



「みんなでつくる持続可能な協働活動」

～できることを持ち寄って やってみよう～

(R6学社連携・協働フォーラムテーマより)

学社連携・協働フォーラムを11月9日(土)に開催しました。今年度も引き続き参集での開催(講演・研修①をYouTube 限定配信)ができました。当日は寒い中でしたが、総合教育センターに約60名の方にお集まりいただき、「みんなでつくる持続可能な協働活動」をテーマに研修を行いました。

講演

「子どもと地域をつなぐ学社連携・協働のために
一連携・協働を阻むものは何か」

松本大学教育学部学校教育学科 准教授

大蔵 真由美 先生



講演では、【「大変さ」を分け合う社会】や【体験格差の問題】について、島立子ども広場での実践と重ねて、大蔵先生から講演をしていただきました。

【講演を聞いた参加者の感想より】

- 「大変さを分けあう」という考え、とても心に残りました。子育てにしろ、介護にしろ、教育にしろ、大変さの偏りを感じながらも、「どうしてもできない」「もっとがんばらないと」とあきらめたり、追い詰められたりしている人の多い社会は、誰にとっても生きにくい場所なのだと思います。島立子ども広場の実践に勇気をいただきました。(PTA)
- 「体験不足は仕方ない」「体験が不足しているから学校で」と思っていた考えが大きく変化しました。地域や公民館から届くイベントのチラシを職員で回覧・掲示していますが、参加を積極的に促すまでしていませんでした。中学校の勤務だと土日部活動、空いている時間も疲れて寝てしまい、我が子に体験させてあげられなかったと振り返りました。両親共働き、祖父母も働いている家庭が多いです。地域と交流する時間についてもっと大事にし、地域を巻き込んで、地域に頼りながら、子ども達の育成にあたっていきたく強く思いました。何かを始める場合には、小さく実行からだんだん広めていく、まずは考えて実行できるようにしていきたいです。【こうでなければならぬと考えるのではなく、できる人ができることをする、という意識の大切さ、すごく気軽な気持ちでやってみる】(学校)

講演を聴きながら、自分のことをふり返り、考えていました。私は、誰かに「大変さ」を分けてもらうことに、抵抗はありません。しかし、自分から「大変さ」を分けるということは苦手だと気が付きました。「助けて」と言えない自分。その背景にあるもの。それが、私自身の「連携や協働を阻むもの」なのだろうと思っています。

研修①トークセッション「“ふり返り”をみんなで聴いて考えよう」

ファシリテーター：大蔵 真由美 先生

パネリスト：島立こども広場運営委員会

磯崎 ふく子さん・濱本 初美さん



研修①では、大蔵先生も委員である「島立こども広場運営委員会」の磯崎さんと濱本さんにパネリストとして参加していただき、日頃の活動について、思っていることや考えていることをお話していただきました。

【トークセッションを聞いた参加者の感想より】

- 身近な課題について分かりやすくトークセッションをしていただきありがたかったです。雑談のような会議から楽しく活動に向かっている3名の明るいパワーが印象的でした。（社会教育委員）
- スタッフの皆さんの広場に関わる生の声や感想をトークセッションで聴けて「やらされる」ではなく「やりたい」、「やってみたい」願いにもとづく活動こそ求める姿だと思いました。これは子どもも大人も大事にすべき原点であると感じました。（学校）
- できる人ができることを行うから無理がない。それが大事だと感じました。こども広場の方々が楽しそうだと思いました。（PTA）

磯崎さんと濱本さんの生の声が参加者のみなさんの日常の取組と重なり、参加者にとって多くの気づきがあるトークセッションとなりました。内容だけではなく、3名の方のお話する表情や語りが「こども広場」が子どもだけではなく、大人にとっても魅力的な場になっていることを表しているように感じました。

②ワークショップ「地域活動なんでもトークをしよう！」

研修②では、大蔵先生に全体のファシリテーターを務めていただき、参加者をA～Mのグループに分け、講演やトークセッションをふり返って考えたことや感じたこと、地域活動や連携について日頃悩んでいることを語り合いました。



【ワークショップ参加者の感想より】

- 率直な悩みなどが聞けて、だんだん「共感」が広がったと思います。活動には軸としての「目的」を見失わず、だからといって無理せず、できる事をできる場でやるが成り立つコミュニティが必要で、おおらかさ、共感、歩み寄りという点を加えたいというようなまとめとなりました。（学校）
- 色んな立場で子ども達に関わる方々と話をしっかり出来て、短時間でしたが、とても有意義と思える時間でした。こういう場に、声を掛けてもらう機会があることもPTAとして存在する利点として捉えても良いと思いました。（PTA）
- できる事をできる人がする、役職ではなく役割に関わるなど普段から取組めると感じました。（公民館）
- 気軽に話ができる空気の中で生まれるものは大きいと感じました。子ども達のために頑張りたいと思っている仲間がこんなにもいるということが励みになりました。（地域連携コーディネーター）

「できることをできる人がする」。これは、他人任せにするということではなく、大蔵先生のお言葉をお借りすると「ケアをする」ということです。ケアを共にし合って活動していくこと、それが持続可能な協働活動へと繋がっていくのではないのでしょうか。今年度のフォーラムが、ご参加いただいた皆様の今後のお役に立つものであったなら幸いです。お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。